

「口腔保健推進における他職種連携」
～その先駆的取り組み～

“フッ化物洗口普及における他職種連携”

社団法人秋田県歯科医師会
公衆衛生理事 松野 才

3歳児一人平均むし歯本数・都道府県別順位の推移

	平成8年度			平成9年度		平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		
1	東京	1.3	東京	1.2	東京	1.2	東京	1.0	東京	0.9	東京	0.9	東京	0.9	東京	0.8	東京	0.8	東京	0.7	東京	0.7	東京	0.7	東京	0.7	東京	0.6
2	神奈川	1.3	神奈川	1.3	神奈川	1.3	静岡	1.1	神奈川	1.1	神奈川	1.0	神奈川	0.9	愛知	0.9	愛知	0.8	愛知	0.7	愛知	0.7	愛知	0.7	愛知	0.7	岐阜	0.6
3	大阪	1.4	愛知	1.4	愛知	1.3	愛知	1.2	静岡	1.1	愛知	1.0	愛知	0.9	静岡	0.9	神奈川	0.8	静岡	0.8	神奈川	0.7	岐阜	0.7	愛知	0.7	愛知	0.6
4	愛知	1.4	兵庫	1.4	兵庫	1.3	神奈川	1.2	愛知	1.1	兵庫	1.0	岐阜	1.0	岐阜	0.9	岐阜	0.8	岐阜	0.8	岐阜	0.8	岐阜	0.8	神奈川	0.7	静岡	0.7
5	埼玉	1.5	広島	1.5	静岡	1.3	兵庫	1.2	広島	1.1	広島	1.0	兵庫	1.0	兵庫	0.9	静岡	0.9	神奈川	0.8	静岡	0.8	静岡	0.8	静岡	0.7	神奈川	0.7
6	静岡	1.5	静岡	1.5	岐阜	1.3	岐阜	1.2	兵庫	1.1	岐阜	1.0	静岡	1.0	神奈川	0.9	兵庫	1.0	広島	0.8	兵庫	0.8	兵庫	0.8	兵庫	0.8	広島	0.7
7	兵庫	1.5	埼玉	1.5	広島	1.4	福井	1.3	岐阜	1.2	静岡	1.0	広島	1.0	広島	1.0	広島	1.0	兵庫	0.9	広島	0.8	広島	0.8	広島	0.8	兵庫	0.7
8	福岡	1.5	山口	1.5	福井	1.4	広島	1.3	福井	1.2	福井	1.2	京都	1.2	福井	1.1	福井	1.0	岡山	1.0	福井	0.9	福井	0.9	福井	0.9	京都	0.8
9	福井	1.6	福井	1.6	山口	1.5	山口	1.4	山口	1.3	京都	1.2	福井	1.2	京都	1.2	京都	1.0	新潟	1.0	京都	1.0	京都	1.0	京都	0.9	福井	0.8
10	広島	1.6	福岡	1.6	福岡	1.5	福岡	1.4	島根	1.3	石川	1.3	大阪	1.2	長野	1.2	島根	1.1	福井	1.0	山口	1.0	山口	1.0	山口	0.9	新潟	0.8
{																												
38	大分	3.1	徳島	2.8	岩手	2.8	福島	2.4	大分	2.3	長崎	2.2	大分	2.1	岩手	2.1	岩手	1.9	長崎	1.8	宮崎	1.7	山形	1.5	山形	1.5	山形	1.5
39	岩手	3.1	岩手	2.8	鹿児島	2.8	岩手	2.5	福島	2.3	大分	2.2	長崎	2.1	大分	2.1	山形	1.9	佐賀	1.9	山形	1.7	宮崎	1.6	宮崎	1.6	宮崎	1.5
40	鹿児島	3.2	沖縄	3.0	沖縄	2.8	長崎	2.6	山形	2.4	福島	2.3	山形	2.2	佐賀	2.1	大分	2.0	宮崎	1.9	長崎	1.7	長崎	1.6	長崎	1.6	長崎	1.5
41	宮崎	3.2	鹿児島	3.0	山形	2.9	山形	2.8	長崎	2.5	山形	2.3	福島	2.3	福島	2.2	宮崎	2.1	山形	1.9	秋田	1.7	宮城	1.6	宮城	1.6	宮城	1.5
42	宮城	3.4	宮城	3.1	長崎	2.9	宮城	2.8	宮城	2.5	宮城	2.4	佐賀	2.3	山形	2.2	福島	2.1	宮城	1.9	福島	1.8	佐賀	1.6	佐賀	1.6	佐賀	1.6
43	山形	3.4	山形	3.1	宮城	3.0	沖縄	2.8	青森	2.5	秋田	2.5	宮城	2.3	宮崎	2.2	宮城	2.1	沖縄	2.0	宮城	1.8	福島	1.7	秋田	1.6	秋田	1.6
44	青森	3.5	長崎	3.2	青森	3.0	宮崎	2.9	秋田	2.6	青森	2.5	沖縄	2.4	宮城	2.3	佐賀	2.1	福島	2.0	佐賀	1.8	秋田	1.7	福島	1.6	福島	1.6
45	長崎	3.5	秋田	3.2	宮崎	3.1	青森	2.9	沖縄	2.6	佐賀	2.5	宮崎	2.4	沖縄	2.3	秋田	2.2	大分	2.1	沖縄	1.9	沖縄	1.8	沖縄	1.8	沖縄	1.6
46	秋田	3.6	青森	3.4	秋田	3.1	秋田	3.0	宮崎	2.7	沖縄	2.5	青森	2.4	青森	2.4	沖縄	2.2	秋田	2.1	大分	1.9	青森	1.8	大分	1.8	大分	1.6
47	佐賀	4.0	佐賀	3.6	佐賀	3.4	佐賀	3.1	佐賀	2.7	宮崎	2.6	秋田	2.5	秋田	2.5	青森	2.3	青森	2.1	青森	2.0	大分	1.9	青森	1.8	青森	1.7

12歳児一人平均むし歯本数・都道府県別順位の推移

順位	平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
1	新潟	1.0	新潟	0.9	新潟	0.8	新潟	0.8
2	広島	1.1	愛知	1.1	愛知	1.1	愛知	0.9
3	長野	1.2	広島	1.1	京都	1.1	京都	0.9
4	愛知	1.2	長野	1.2	広島	1.1	岡山	0.9
5	東京	1.3	岐阜	1.2	岐阜	1.2	広島	0.9
6								
40	青森	2.2	宮崎	2.2	鹿児島	2.0	青森	2.0
41	北海道	2.3	熊本	2.3	宮崎	2.1	三重	2.1
42	宮城	2.3	北海道	2.4	北海道	2.2	鹿児島	2.1
43	鹿児島	2.3	三重	2.4	青森	2.2	秋田	2.2
44	熊本	2.4	秋田	2.5	熊本	2.2	高知	2.2
45	秋田	2.4	鹿児島	2.6	大分	2.2	大分	2.4
46	大分	2.8	大分	2.8	秋田	2.5	熊本	2.6
47	沖縄	3.5	沖縄	3.4	沖縄	3.1	沖縄	2.9
	全国	1.71	全国	1.63	全国	1.54	全国	1.40

資料：文部科学省「学校保健統計調査」

お口ブック大作戦事業(県事業)

1) 対 象：幼稚園・保育所の5歳児

2) 期 間：平成16年4月～平成19年3月(3年間)

3) 目 標：100施設 2000名

4) 施策目標：

フッ化物洗口を実施している施設（幼稚園・保育所）の割合
最終目標：平成22年度末で40%→43.3%(平成22年12月31日現在)

5) 成 果：

県内の幼稚園・保育所389施設中

103施設、2,145名がフッ化物洗口を実施（実施率26.5%）

一部市町村では、市町村事業として、小・中学校14校、2,433名が実施

6) 評 価：

モデル事業終了後「フッ素洗口推進事業のまとめ」を発行

市町村等フッ化物洗口推進事業（平成19年度～）

3年間のモデル事業終了により、平成19年度からは、市町村事業としてフッ化物洗口事業を実施している。

秋田県では、市町村におけるフッ化物洗口事業の更なる拡大・定着を図るため、平成19年度から「市町村等フッ化物洗口推進事業」を実施し、市町村を支援している。

内容：1）歯科衛生士による巡回歯科保健指導の実施
2）市町村への県補助金の交付

また、平成21年7月からは、国の「ふるさと雇用再生特別交付金」を活用し、秋田県が秋田県歯科医師会に委託して、雇用してもらった歯科衛生士4名により、「フッ化物洗口等歯科保健訪問指導事業」（平成23年度までを予定）を実施し、市町村等への支援を拡大している。

臼井記念歯科保健功労賞（平成18年～）

秋田県でのフッ化物洗口事業に先鞭をつけるも、平成17年羽越本線特急いなほ号脱線事故で急逝した故臼井和弘氏の功績を称えとともに、その遺志を継承し他の模範となる歯科保健活動を実施している団体・個人を表彰。

秋田県歯科医師会の対応

1. システム作り 「フッ素洗口特別委員会」の設置
(委員は県歯役員と郡市歯科医師会から選出)
2. 広報 TV、ラジオ等での啓蒙・PR活動、ポスター作成
3. 研修会 県民向け公開講座、歯科医師会会員向け研修会
関係者(市町村、施設)向け研修会(毎年開催)
4. 行政への協力 事業説明会のサポート(う蝕予防に関するフッ素洗口の効果や安全性の説明、質疑応答の対応)
5. 要望書 県教育庁へ小学校でのフッ素洗口実施の要望書の提出

◎県民向け情報提供ツール 「歯ッピー通信」の発行(年一回)

◎実施施設の導入ガイドとしてのDVDの製作

“歯ッピー通信”

DVD“フッ素で守ろう 秋田っ子の歯”

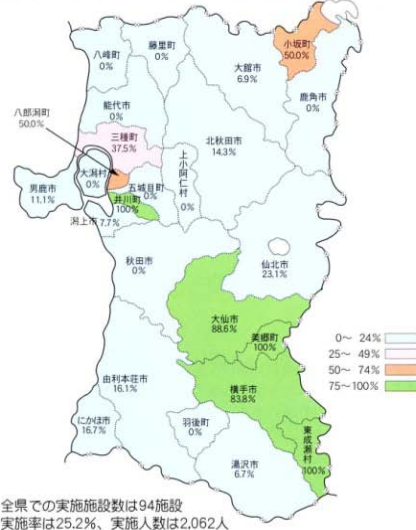
歯ッピー通信 第三号

みんなで守ろう秋田っ子の歯

秋田県はむし歯予防のためにフッ素洗口をすすめています

むし歯予防効果が高いフッ素洗口を園や学校でみんなで行いましょう！

幼稚園・保育所における市町村別実施率 H20.2.1現在



人々が健康な歯で暮らすことができるように歯の健康づくりを進めるためには、個人の努力も必要ですが、社会からの支援がとても重要となります。
保育園や学校でみんなで行うむし歯予防のためのフッ素洗口は社会的支援の典型であると言えます。
クラスのこどもたち、保護者、先生、学校関係者の協力体制によって保育園や学校の歯科保健活動にフッ素洗口を導入して継続していきましょう。



フッ素で守ろう
秋田っ子の歯



関係機関との連携の中心は歯科医師（会）

歯科医師会として統一意思を持つこと



実施に強い理解を持つキーマン
(組織・個人)の存在を得ること

行政（市町村）への働きかけと連携

県行政との違い

- ・ フッ素洗口についての知識がほとんど無い
 - 反対意見に対抗する技術がない
 - 歯科医師会が仲立ちをして協力体制を作ってあげる
 - 実施主体は市であり、反対者と向き合いえるようバックアップをする

市町村・議会への説明内容

1. 秋田県の子供たちの悲惨な現状
2. フッ素洗口事業の効果、安全性
3. 財政への効果(費用対効果)
4. 何より“子どもは地域の宝物”であり、それを守るのはそこに住む大人の責任である

学校・教育委員会への行動

◎学校への働きかけ

- ・ **学校歯科医**として必ず校長・養護への説明を行う
→市からのトップダウンだけでは、抵抗が起こる
- ・ 対決姿勢でなくあくまで冷静に、説明し理解を求める
→学校歯科医の職務であるが、**決断を迫らない**

◎教育委員会への働きかけ

- ・ 県（保健所）、市（担当部長）、歯科医師会長との
面会
- ・ 理解を得られるまで、何度でも**粘り強く説得**
→相手も人間、真剣さが伝われば話を聞くように！？
必ず教育委員会の中に理解者が出てくるはず！？

議会・市議会議員への働きかけ

市議会での実施決定・予算可決は絶対的な意味

→あらゆるコネクションから議員の理解を得る

市民（保護者）のほとんどが賛成する事業である

医師会・薬剤師会の理解・協力

学校医・学校薬剤師の理解と協力

3 師会との会議等で、フッ化物洗口を話題にする

フッ化物洗口事業とは

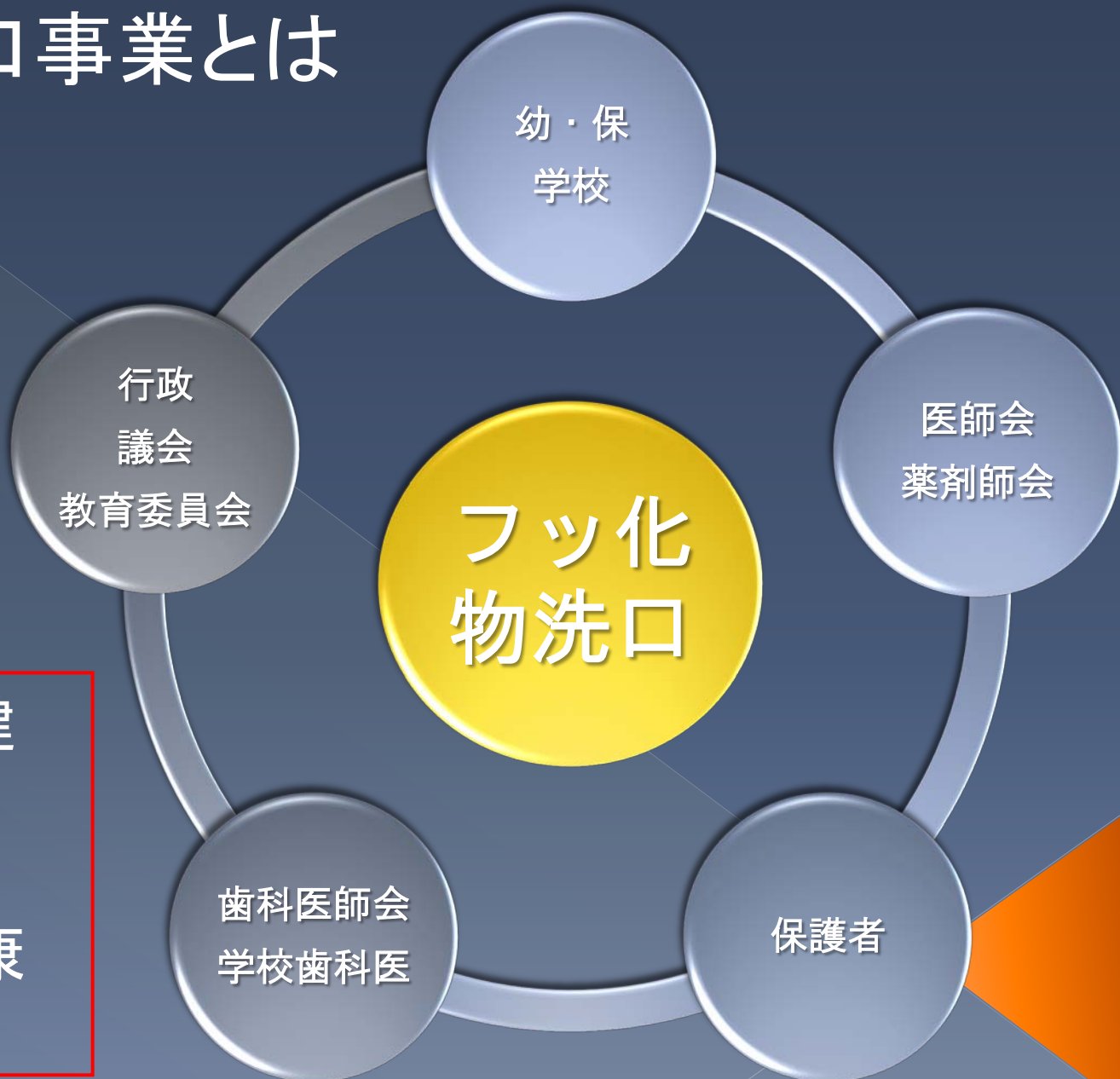
地域の
連携力が
試され、
鍛えられる。



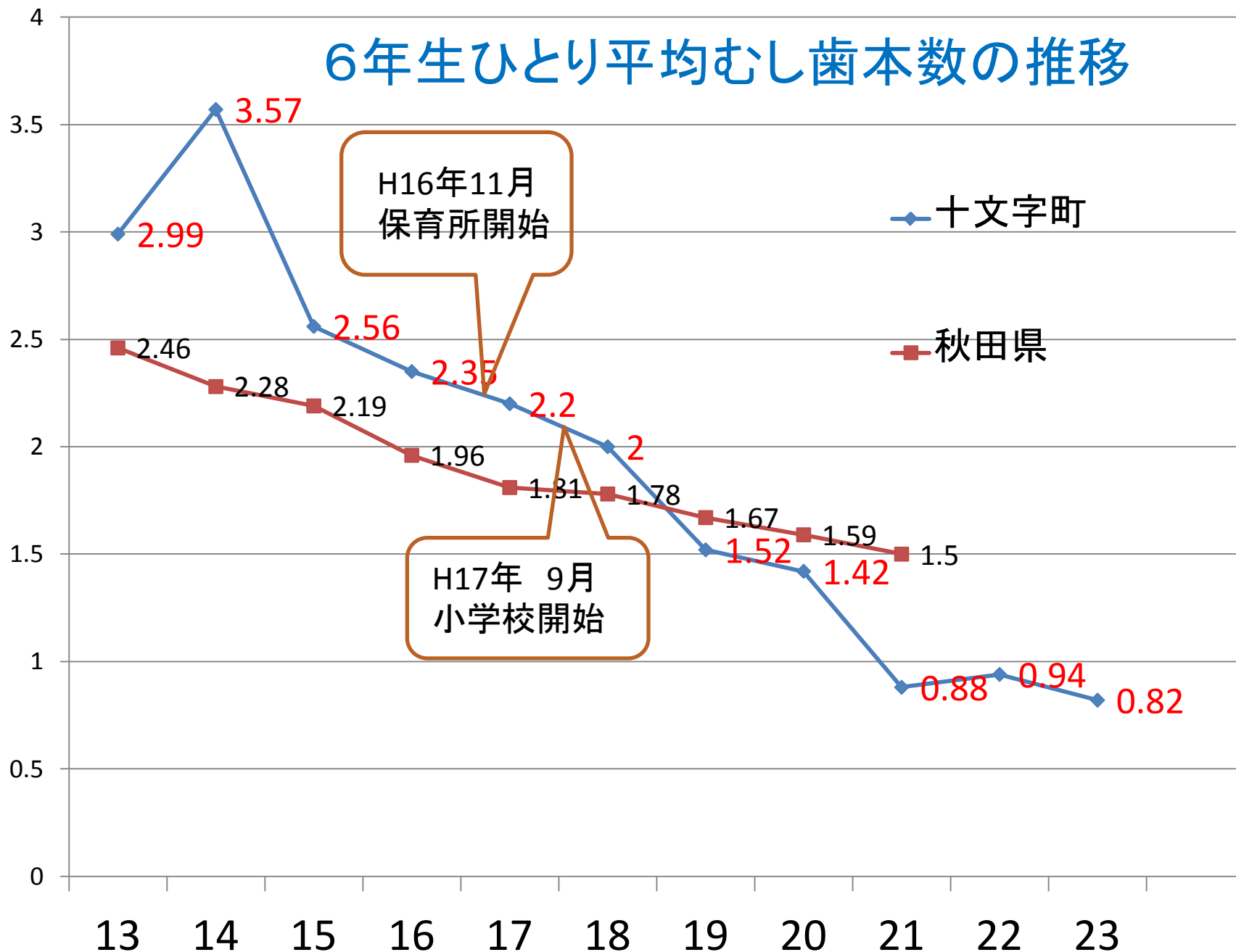
新たな歯科保健
事業の展開



地域住民の健康
向上



6年生ひとり平均むし歯本数の推移



フッ化物洗口実施の有無による小学校6年生の一人平均むし歯本数の比較

洗口の開始時期	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	減少率 (H16とH21を比較)
東成瀬村(H16より実施)	2.94	3.23	2.78	2.00	1.73	1.89	1.41	56.3%
旧増田町(H17より実施)	1.72	2.53	1.81	2.30	2.00	0.95	1.10	56.5%
旧十文字町(H17より実施)	2.56	2.35	2.16	2.00	1.53	1.42	0.88	62.6%
秋田市(未実施)	1.96	1.82	1.86	1.75	1.67	1.54	1.52	16.5%
鹿角市(未実施)	2.04	2.35	1.99	2.11	2.11	2.21	2.09	11.1%
男鹿市(未実施)	2.22	1.46	4.24	1.59	1.56	1.32	1.32	9.6%
秋田県	2.19	1.96	1.81	1.78	1.67	1.59	1.50	23.5%

※秋田県の学校体育・健康教育資料集(秋田県教育委員会発行)より抜粋

※旧増田町のデータは横手市増田地域局のデータより抜粋

※旧十文字町のデータは松野歯科医院 松野 才 氏(学校歯科医師)のデータより抜粋

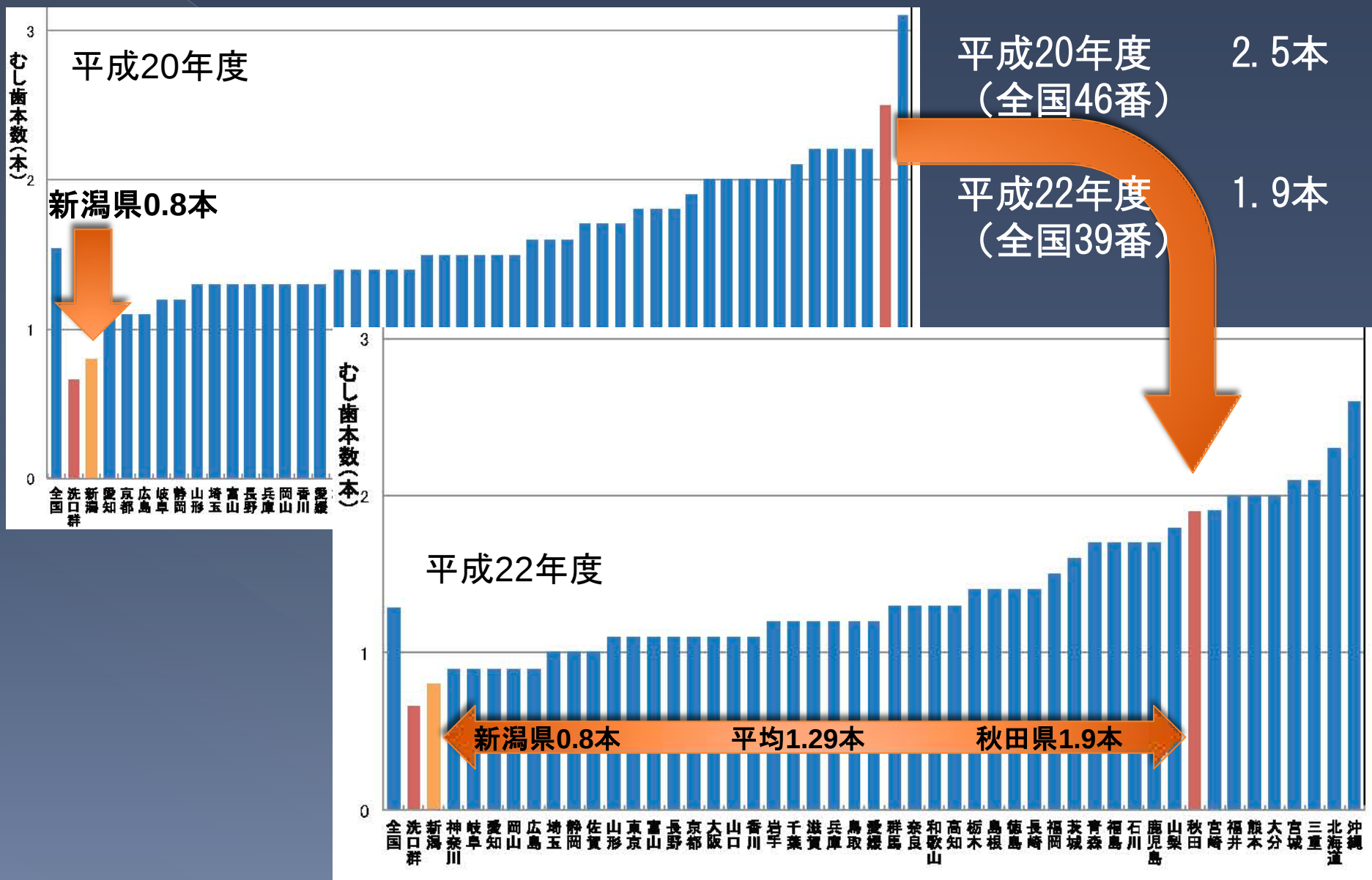
秋田県のフッ化物洗口実施施設数と実施人数

22年度は平成22年12月31日現在

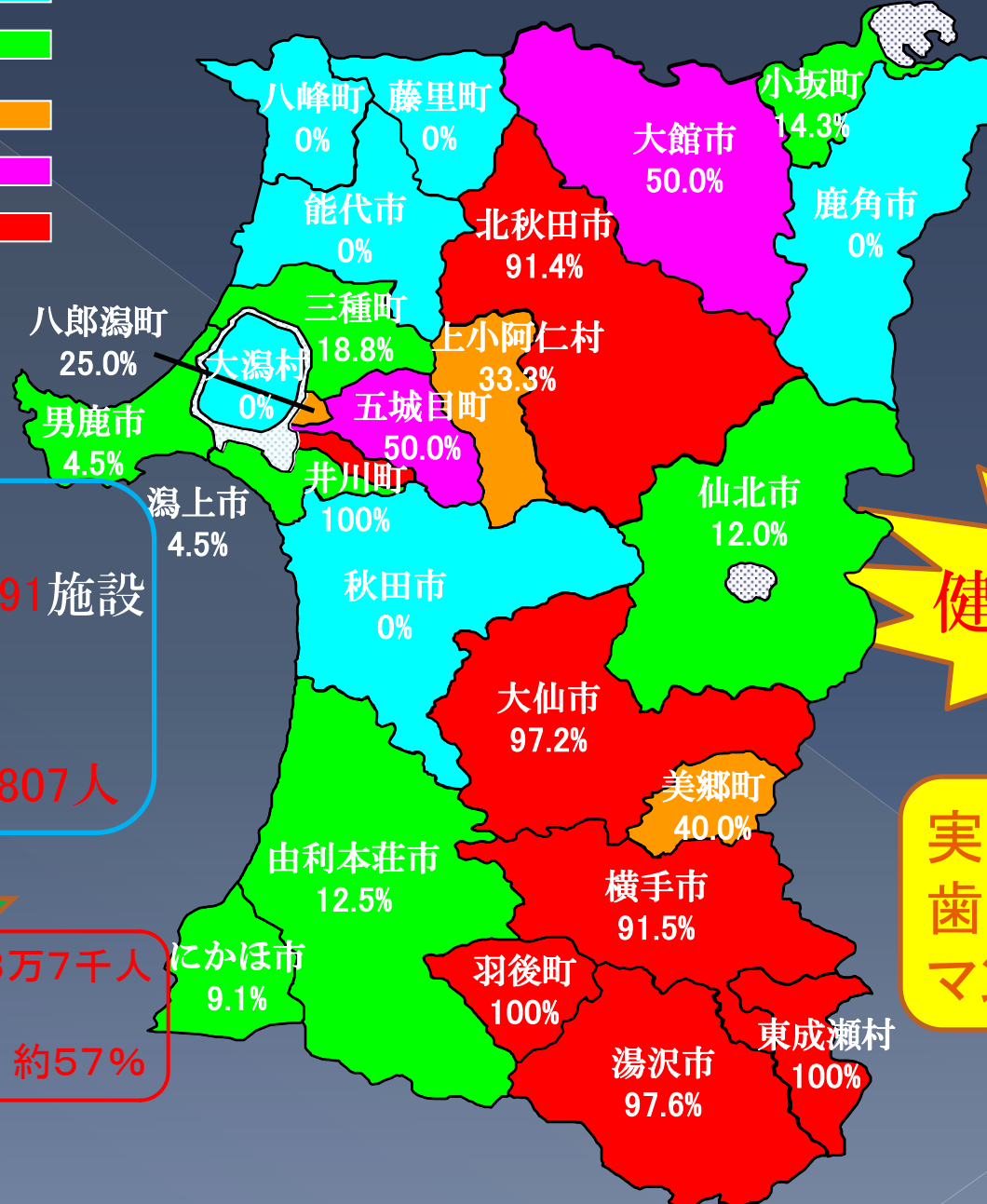
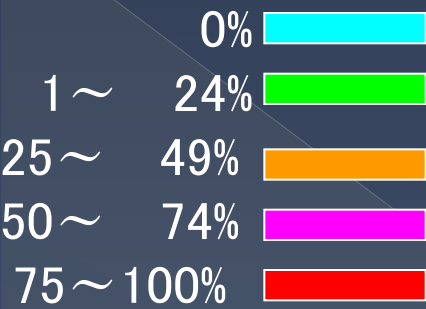


平成23年9月概算 実施施設約340, 実施人数約37,000人

12歳時の一人平均むし歯本数（都道府県別）



平成22年度 市町村別実施率（秋田県全体）



地域格差



健康格差拡大

実施拡大に伴い
歯科衛生士など
マンパワーの不足

H22.12.1現在
実施施設数は**291**施設
実施率は **38.3%**
実施人数は **22,807**人



平成23年9月 **約3万7千人**
小学校での実施率 **約57%**

フッ素で守ろう 秋田っ子の歯!



お口ブクブク大作戦の立案など秋田県の歯科保健に多大な貢献をなされ、志し半ばで、平成17年12月25日に起きたJR羽越線脱線転覆事故で急逝された故臼井和弘先生（享年34歳）に心から敬意と哀悼の意を表します。

ご静聴ありがとうございました

この笑顔を守りたい

